No.16 …… ご使用に当って特に注意して頂きたいことのレポートです

TOP SAFETY REPORT

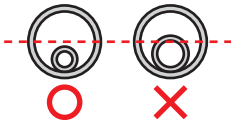
トップ吸引カテーテル（気管内挿管用）

1 正しい操作を身につけましょう

吸引カテーテルを気管内・気管切開チューブに挿入して使用する場合、吸引操作はカテーテルを抜きながら行います。カテーテルを挿入する時には吸引圧をかけないようにし、挿入後に陰圧をかけながら、カテーテルを転がすように回しながら引き抜きます。吸引カテーテルの種類によって陰圧のかけかたが違ったりするので、操作には注意が必要です。

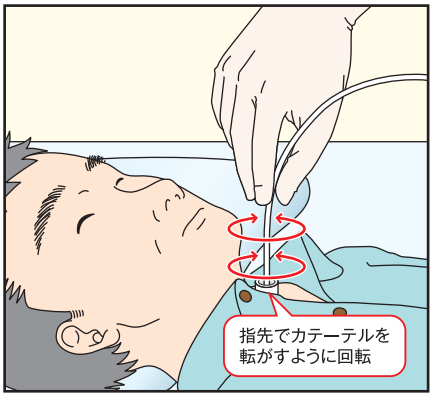
Check 1 適正なサイズを確認して使用します

気管内・気管切開チューブに挿入する場合には、チューブの内径の1/2以下のサイズを選択してください。末梢気道に陰圧が加わり、肺胞虚脱を引き起こすおそれがあります。



Check 2 挿入する深さを決めます

事前に挿入する深さを決めておいてください。挿入過多の場合、カテーテルが抜去できないおそれがあります。



〈気管切開チューブの例〉

Check 3 滅菌手袋を装着します

操作をする前には、必ず滅菌手袋を装着してください。

Check 4 慎重に挿入します

挿入の際には、気道粘膜の損傷に十分注意してください。

Check 5 吸引圧のタイミング

目的の場所に挿入するまで、吸引圧をかけないでください。

Check 6 吸引圧の目安

吸引圧の目安は、20kPa（150mmHg）とされています。

Check 7 ゆっくりと引き抜きながら吸引します

吸引は、カテーテルを転がすように左右に回し、ゆっくりと引き抜きながら実施してください。

Check 8 素早い操作を心がけましょう

吸引操作は、できるだけ素早くすませるようにしてください。

Check 9 分泌液が多い場合は

分泌液が多く、1回の吸引で不十分な場合は、一旦カテーテルを抜去して深呼吸をさせたり、バッグで肺を膨張させたりした後、再び吸引するようにしてください。

Check 10 1回の吸引は10～15秒ですませます

長時間の吸引は患者の苦痛になるため、10～15秒程度を1回の目安にし、不十分な場合には、患者の呼吸を整えてから再度行ってください。

2 低酸素状態にある患者に使用する場合

特に吸引圧、吸引時間に注意してください。無気肺をきたすおそれがあります。

株式会社トップ　安全管理部
〒120-0035 東京都足立区千住中居町19番10号

使用の際には、必ず詳細を添付文書及び取扱説明書にて確認してください。